

領域統合型の言語活動を通して 生徒のパフォーマンスの変容を評価する

ポイント ① パフォーマンス課題を設定し、学習の見通しをもたせる

新学習指導要領では、言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指しています。

各校の年間指導計画と CAN-DO リストに基づいて、単元（もしくは複数単元）のゴールであるパフォーマンス課題を設定し、指導と評価の計画を立てます。当該単元の学習を始める前に、生徒にパフォーマンス課題と評価基準表（ルーブリック）を示し、この単元では、「英語を使って何ができるようになるればよいか」を共有します。そうすることで、生徒は学習の見通しがもて、教師も最終目標に向かって、系統的・継続的な指導と評価を一体的に行うことができます。

学習到達目標(CAN-DOリスト)

パフォーマンス課題(テスト)
評価基準(ルーブリック)

授業中の言語活動

ポイント ② 領域統合型の言語活動を通して、指導と評価を繰り返す

中学校外国語科においては、複数の領域を効果的に関連付ける統合的な言語活動を重視しています。

例えば、「聞くこと」「読むこと」で得た知識や情報、考えなどを活用して「話すこと [やり取り] [発表]」「書くこと」において、適切に表現し伝え合う言語活動を工夫して行うことができます。同様の言語活動を相手や役割を変えながら繰り返し行い、学びを深めます。言語活動と言語活動の間には、内容面と言語面において中間指導・形成的評価を行い、生徒の「気づき」を引き出します。評価を指導に生かすことがとても大切です。

日常生活では、聞いた話をメモして人に伝えたり、読んだ内容を文章にまとめて口頭で発表したりしますよね！



聞いたり読んだりしたことについて友達と話した方が、自分の考えをもちやすいです。話したり、書いたりする内容が発展したり、深まったりします！



ポイント ③ 振り返りシート等を活用し、記録に残す評価を工夫する

記録に残す評価は、「単元の終末」もしくは「複数単元の後」に行います。資質・能力が高まってから評価を行う考え方です。パフォーマンス評価では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を一体的に評価することが可能ですが、一度に3観点を見取るとは難しいことも考えられます。例えば、パフォーマンステストを行う前に、リテリングなどで「知識・技能」のみを授業中に評価することもできます。動画を撮るなど、評価方法を工夫する必要があります。その結果はパフォーマンス評価に加味することもでき、記録に残す評価の信頼性・妥当性を高めることにもつながります。

また、振り返りシートの記述から、「主体的に学習に取り組む態度」を見取することも大切です。振り返りの記述は、生徒の思考が可視化されたものです。振り返りをさせる際、教師はどのような自己調整をさせたいかイメージをもちましょう。その記述が、言語活動において、実際に態度となっていて表れていれば、評価に加味することができます。

前回のテストでは、ALTの〇〇先生からの質問に答えているだけでした。今回は、〇〇先生のことを考えて質問したり、答えたりすることができました。会話が続くようになってきています。



3学年

「防災マニュアルを読んで、災害時の対応についてALTとやり取りしよう。」

外国語科実践事例

単元名：To Our Future Generations

(NEW HORIZON Unit 4)

防災や震災の逸話などに関して書かれた英文を読み、外国の人と災害時の対応について話す。

評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語 [50分]	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 防災や災害について、考えたことや感じたことなどを、既習表現や不定詞などを用いて伝え合う技能を身に付けている。(※1) 	相手に必要な情報や考えを伝えるために、防災・災害に関して読んだことを引用したり、理由を加えたりしてアドバイスしながら、やり取りをしている。(※2)	相手に必要な情報や考えを伝えるために、防災・災害に関して読んだことを引用したり、理由を加えたりしてアドバイスしながら、やり取りをしようとしている。(※3)

指導と評価の計画 (関係箇所のみ)

時間	主な言語活動 (○)	評価			
		知	思	態	(※)評価規準〈評価方法〉
1	◆単元の目標と評価を理解する。 ポイント1 ○教科書の「避難訓練のお知らせ」を読み、 読み取れた内容をペアで伝え合い、その内容を書く。				★本時では目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。
2	○災害時(地震)「何をすべきか」「どこに行くべきか」自分の考えをペアで伝え合う。※疑問詞+to do... ○英文を引用する表現(The handout / map says...)を学ぶ。				思考・判断・表現 ALTへアドバイス ①理由を述べる b ②資料引用 } a ③自ら質問
3	○災害時(火事)「必要があること」「重要なこと」を ペアで伝え合い、自分の考えを書く。 ※It is ~ (for 人) to do...			ポイント2	
4	○ 教科書本文を理解し、 絵や語句をヒントに内容を ペアに伝えその内容を書く。				
5					
6	○災害時(豪雨)「相手にしてほしいこと」やその理由をペアで伝え合う。※want (人) to do...				
7	○前時までの内容を踏まえ防災についてペアで話す。 ○本文内容の 要約や自分の考えなどを書く。	○			(※1)〈行動観察・振り返りシート記述〉
8	○市の防災マニュアルやハザードマップを見て、ALTのために必要な情報をペアで伝え合う。 ポイント3		○	○	(※2 ※3)〈行動観察・振り返りシート記述〉
9	パフォーマンステスト 近年、地震だけでなく豪雨による災害などが増えていて、ALTは不安に思っています。災害時にどこへ行ったらいいか、何を準備したらいいかなどを聞きながら、自分で用意したメモやハザードマップ、防災マニュアルを用いて、理由を含めてアドバイスしてください。また、あなたから質問しても構いません。	○	○	○	行動観察・ループリック

授業改善のポイント **重要!**

- ①パフォーマンステストにおいて、ハザードマップや防災マニュアルなど学校区の実物資料を使うことで、より実際の場面を意識したコミュニケーション活動を行うことができた。 **ポイント1**
- ②読んだことを話す、話したことを書くといった活動に、複数回取り組むことで学びを深めることができた。ペア活動を中心にフィードバックを重ね、生徒が気づき、学ぶ機会を設けた。 **ポイント2**
- ③振り返りシートの記述を評価に生かした。帯活動やその他のペア活動などで話した内容を振り返りシートに英文で書かせ、正確性の指導や評価につなげる工夫をした。また、タブレット端末で生徒のパフォーマンスを録画し、記録に残す評価に活用した。英語表記のループリックを使ってALTと打ち合わせをし、信頼性・妥当性のある評価に努めた。 **ポイント3**

	①knowledge / skill	②ability to think / judge / express	③attitude
a	can use → ✓ It's ~ for ~ to ... ✓ what to ~ / how to ~ want(ask) ~ to ... ✓ other expressions they've learned already	can → ✓ answer ALT ✓ quote the hazard map or the guide sheet ✓ add reasons ✓ ask about ALT	try to do ②-a
b	can use (a few mistakes) → ✓ It's ~ for ~ to ... ✓ what to ~ / how to ~ want(ask) ~ to ... ✓ other expressions they've learned already	can → ✓ answer ALT ✓ add reasons	try to do ②-b
c	can't achieve "b"	can't achieve "b"	can't achieve "b"

英語表記のループリック

実践事例の詳細は右のQRコードから

